横浜市こども青少年局保育・教育支援課
幼　保　小　連　携　担　当

令和8年度「子どもの心に寄り添うカウンセリング研究会」

第 33 期研究員募集のご案内

保育・幼児教育、学校教育に携わるみなさんへ

相手を尊重する姿勢で人と関わるために

「子どもの心に寄り添うカウンセリング研究会」は、令和 8 年度で 33 年目を迎えます。

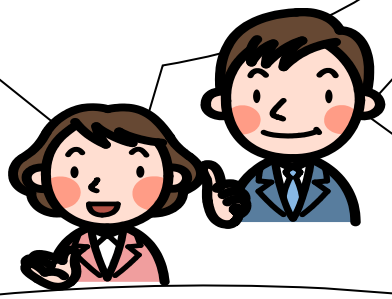
研究アドバイザー（臨床心理士等）の講義とロールプレイ等の演習、グループ協議を通して、保育士・教諭のみなさんが互いの実践現場での様々な課題について話し合います。グループは年間を通して同じメンバーですので、仲間づくりにもつながったという声もいただきます。

毎回の研究会の感想や各園・学校での取組について往還的に対話を重ねることで、「傾聴・共感・寄り添い」といった「援助的コミュニケーション」の力を磨き、日常の保育・教育に生きる研究会です。

参考　令和 7 年度第 32 期生研究員の感想より（幼保小担当で意見をまとめています）

「非言語コミュニケーション」が子どもにとって重要なことについては、実践を通して子どもの感じ方を体験することができました。また、知識として「アンビバレント（両価性）」を知ることができたことで、子どもや保護者と接する際に、一見わがままに見える振舞いにも冷静に対応できるようになったと思います。

「あなたの言いたいことはこういうことで合っていますか？」と確認しながらカウンセリングを進めていくことを学んだので、生徒とのやり取りに「確認」というステップをとり入れることにした。視線入力装置の活用により、対象生徒が意思表出において「視線」を有効に使っていることがわかったので、私が生徒の正面に位置し、しっかり目を合わせてから 2 つの選択肢を左右で出すことを繰り返した。



「援助的コミュニケーションには、自分の問題を棚上げできていることが必要」、「自分の中にある葛藤と常に向き合うのが対人援助である」とおっしゃった稲富先生の言葉を聴いて、それでいいんだなと安心した。自分にはまだまだ足りない部分があることも自覚しているので、私が相談相手でふさわしいのかという心配もあったが、稲富先生のお言葉で、ありのままの私が葛藤しながら対応していくのでもいいんだなと救われた気持ちになった。